

特260

8

4

146

行書真率銘

完



始



特26
14

中村春堂著



行書真率銘



寒香會藏版



訓讀

宋の司馬温公

眞率の銘

吾が齋の中、虚禮を尙ばず。客の來るを迎へず。客の去るを送らず。賓主間なく、坐列序無し。眞率を約みなし、簡素を具みなす。酒あれば且つ酌み、酒無ければ且つ止む。清琴一曲、好香一炷。閑に古今を談じ、靜に山水を玩ぶ。是非を言はず、官事を論ぜず。行立坐臥、形を忘れ意に適ふ。冷淡の家風、林泉の高致。道義の交り、是の如きのみ。腥膻を羅列し、周旋布置。俯仰奔趨、揖讓拜跪。内は眞誠に非ず、外は徒らに矯僞。一に利害に關し、反目相視る。此れ世俗の交り、吾れ斯に屏棄す。

宋司馬温公眞率銘

吾齋之中。	不尙虚禮。	不迎客來。	不送客去。
賓主無間。	坐列無序。	眞率爲約。	簡素爲具。
有酒且酌。	無酒且止。	清琴一曲。	好香一炷。
閑談古今。	靜玩山水。	不言是非。	不論官事。
行立坐臥。	忘形適意。	冷淡家風。	林泉高致。
道義之交。	如是而已。	羅列腥膻。	周旋布置。
俯仰奔趨。	揖讓拜跪。	内非眞誠。	外徒矯僞。
一關利害。	反目相視。	此世俗交。	吾斯屏棄。

摘解

◎司馬温公この銘の作者、司馬光
 といひ、字は君實、陝州夏縣の人、兒
 童たりし時凛然として成人の如し。
 七歳の時左氏春秋の講を聞き太だ之
 を愛し、退いて家人の爲に之を講す
 仁宗帝に仕へ諫院の知たり。三劄を
 進め五親を進む。神宗帝位に即き、
 首に公を擢き翰林學士（我が皇紀一
 七二五年）を爲す。數々上書して王
 安石の新法の不可をいふ。累官して
 宰相に至り、洛に居る。こゝ十五年、
 兒童走卒も司馬君實を知る。六十八
 を以て薨す。後太師温國公を贈られ
 文正と諡す。著す所、資治通鑑の外
 文集八十卷、迂書、凍水紀聞等二十
 種あり。◎眞率◎素直にして作りか
 ざりのない。◎銘◎器物等に記
 し自ら警むる爲にす。句末に韻をふ
 み毎句同字數なるを普通とす。◎虚
 禮◎上へばかりの誠意の無い禮儀。
 ◎賓主◎客と主人。◎行立坐臥◎行
 く、まゐる、坐する、臥す。即ち
 行儀ふるまひ。◎腥膻◎なまぐさ。
 ◎奔趨◎走りおもむく。◎揖讓◎拱
 手の禮をなして謙遜すること。◎嬌
 幅◎いつはり。◎屏棄◎退け棄つ。

通解

吾が書齋中では上へばかりの禮儀は尊重しない。故に客が来るにて一々出迎はせぬ。隨つて歸るか
 らきてこれ亦送りもせぬ。お客が來ても主人たる自分とわけへだてなく、坐するにも上下の區別を
 つけない。總べて物事を手輕にし儉約を主とし、設備なごも成るべく簡略にして置く。酒もあれば
 飲むが、其の時無ければ止してしまひ、買つてまで飲まうごもしない。清琴で一曲を弾じ、好い香
 を焚いて興をやる。俗事の暇に古今成敗なきを談じあひ、又山水を賞したりする。又物事に對し愚
 にもつかぬ、是だごか非だごかいふ批評なきを加へない。官の事に對しても彼れ此れと議論なきは
 しない。たちゐる振舞は萬事物我が境を超越して、我が氣に入つた所を樂しみとする。執着なくあつ
 さりとした家の憲法、林園山水を樂しむ高尚な趣味、自分の道德上の交際といふものは、まあごつこ
 以上のやうなものである。なまぐさものである所の魚肉の馳走を澤山並べて、何から何まで手落ち
 なくしてもてなしたり、御機嫌ごりに走り歩いたり、殊更禮儀正しさうに兩手を胸に當て、拜禮し
 たり、膝をついて拜したりするやうな事は、内から出た誠ではない。それは只表面を飾れる偽りで
 ある。一たび利害に關する問題が生じたならば、昨日の親友も今日はにらみ合つて敵視すること、
 なる。斯うするのは世の俗人の交際で、自分はこの類のものは退け棄つるのである。

吾 齋 之

中 不 尚

虛

禮

不

迎

客

來

不

送

客

去

賓

主

無

間

坐

列

無

序

真

率

為

約

簡

素

為

具

有

酒

且

酌

無

酒

且

止

清

琴

一

曲

好

香

一

炷

闲

谈

古

今

静

玩

山

水

不

言

是

非

不

論

官

事

行

立

坐

卧

忘

刑

適

意

冷

淡

家

風

林

泉

高致道

義之交

如而是而
已羅列

脛

臙

周

旋

布

置

俯

仰

奔

趨

揖

讓

拜

跪

内

非

真

誠

外

徒

矯

偽

一

關

利

害

反

目

相

視

此

世

俗

交

吾

斯

屏彙

宗司馬溫公真率銘

昭和九年七月廿四日印刷
昭和九年八月十日發行

不許
複製

【定價金五拾錢】

東京市牛込區市ヶ谷田町三ノ二〇

筆者兼發行人 中村梅太郎

東京市京橋區銀座西二丁目五番地

印刷所 森彩雲堂

東京市牛込區市ヶ谷田町三ノ二〇

發行所

寒香會

電話牛込(34)六〇四六番
振替東京三六四一三番

終

